

仙台市高齢者保健福祉計画 策定のための実態調査報告書

【高齢者一般調査】

令和2年3月

仙台市健康福祉局保険高齢部高齢企画課

目 次

第1章 調査の実施概要	3
1 調査目的.....	3
2 調査設計.....	3
3 調査の回答状況.....	4
4 報告書を読む際の留意点.....	4
第2章 分析結果の概要	7
1 調査対象者の属性.....	7
2 健康状態について.....	8
3 楽しさ・生きがいについて.....	8
4 仕事について.....	9
5 社会参加の状況と社会貢献について.....	10
6 日常生活について.....	12
7 外出について.....	13
8 買い物について.....	15
9 地域社会との関わり方について.....	15
10 住宅、住み替え意向について.....	16
11 本人・世帯の年間総収入について.....	17
12 介護保険料について.....	18
13 介護保険制度について.....	20
14 地域包括支援センターについて.....	22
15 高齢者福祉サービスについて.....	23
16 介護予防について.....	26
17 認知症対策について.....	28
18 地域包括ケアシステムについて.....	31
19 健康や福祉の情報入手について.....	31
20 相談相手について.....	32

21	高齢者虐待防止について	32
22	孤立死について.....	33
23	災害時の安否確認について	33
24	終活について.....	34
第3章 設問項目ごとの集計結果.....		37
1	調査対象者の属性	37
	（1）調査票の記入者	37
	（2）性別.....	37
	（3）年齢.....	38
	（4）世帯の状況.....	38
	（5）世帯全員の人数	39
	（6）居住地域（中学校区）	40
2	健康状態について	42
	（1）健康状態.....	42
	（2）日常生活の状況について	43
3	楽しさ・生きがいについて.....	44
	（1）楽しさや生きがいを感じる事【複数回答】	44
4	仕事について.....	45
	（1）現在の仕事の有無	45
	（2）今後の仕事の意向	45
5	社会参加の状況と社会貢献について	46
	（1）社会参加の状況【複数回答】	46
	（2）地域活動や福祉活動に参加しやすくなるために 必要な事【複数回答】	47
	（3）地域社会に貢献してみたいと思う事【複数回答】	48
	（4）地域社会に貢献してみたいと思う理由【複数回答】	49
	（5）地域社会に貢献する考えがない理由【複数回答】	50
6	日常生活について	51
	（1）日常生活に対する不安【複数回答】	51
7	外出について.....	52
	（1）外出の頻度.....	52
	（2）外出の際の交通手段【複数回答】	53
	（3）外出の目的【複数回答】	54

(4) 外出の際に困ること【複数回答】	55
(5) 外出しない理由【複数回答】	56
8 買い物について	57
(1) 買い物の頻度	57
(2) 買い物の手段【複数回答】	58
9 地域社会との関わり方について	59
(1) インターネットやスマートフォン等の活用頻度【複数回答】	59
(2) 近隣との付き合い状況	60
10 住宅、住み替え意向について	61
(1) 居住形態	61
(2) 住宅に関して困っていること【複数回答】	62
(3) 介護が必要になった際の住み替えの意向	63
11 本人・世帯の年間総収入について	64
(1) 本人の年間総収入	64
(2) 世帯の年間総収入	65
12 介護保険料について	66
(1) 保険料段階	66
(2) 保険料の負担感	66
(3) ひと月あたりの妥当と考える保険料額	67
(4) 保険料と介護サービスのあり方	68
(5) 市独自の介護サービスと保険料のあり方	69
13 介護保険制度について	70
(1) 介護保険制度の仕組みについての周知状況	70
(2) 今後利用したい介護サービス	71
(3) その介護サービスを選んだ理由【複数回答】	72
(4) 介護保険制度の利点【複数回答】	73
(5) 介護保険制度で不十分なもの【複数回答】	74
14 地域包括支援センターについて	75
(1) 地域包括支援センターの認知度	75
(2) 地域包括支援センターの利用経験	76
(3) 地域包括支援センターに今後期待すること【複数回答】	77
15 高齢者福祉サービスについて	78
(1) 現在利用しているサービス【複数回答】	78
(2) 今後利用したいサービス【複数回答】	79

(3) 地域のボランティアやNPO等の支援で良い 訪問介護系サービスの種類【複数回答】	80
(4) 閉じこもり予防に良いと考える通いの場の種類【複数回答】	81
(5) 高齢者を支援する仕事やボランティア活動への取り組み意向	82
(6) 活動中または取り組みたい活動内容【複数回答】	83
(7) 取り組みたい活動に対する報酬額	84
(8) 取り組みをはじめる際のきっかけ【複数回答】	85
(9) 取り組みたくない理由【複数回答】	86
(10) 高齢者福祉サービスの利用者負担金の考え方	87
16 介護予防について	88
(1) 介護予防の認知度	88
(2) 介護予防についての取り組み状況	88
(3) 介護予防のために取り組んでいること【複数回答】	89
(4) 介護予防に取り組まない理由	90
(5) 介護予防に関し仙台市に力を入れて欲しいこと【複数回答】	91
17 認知症対策について	92
(1) 認知症の人と接する機会の有無	92
(2) 認知症の人と接した経験【複数回答】	93
(3) 認知症に対するイメージ	94
(4) 認知症の方または認知症になった際の不安感【複数回答】	95
(5) 認知症の家族がいる方または家族が 認知症になった際の不安感【複数回答】	96
(6) 認知症になっても安心して生活するために 必要なこと【複数回答】	97
18 地域包括ケアシステムについて	98
(1) 地域包括ケアシステムのために必要なこと【複数回答】	98
19 健康や福祉の情報入手について	99
(1) 健康や福祉に関する情報の入手先【複数回答】	99
20 相談相手について	100
(1) 悩みごとの相談相手【複数回答】	100
21 高齢者虐待防止について	101

(1) 高齢者に対する虐待の防止のために 必要な取り組み【複数回答】	101
22 孤立死について.....	102
(1) 孤立死に対する考え.....	102
(2) 孤立死を防ぐために有効な手段【複数回答】	103
23 災害時の安否確認について	104
(1) 災害時には誰に安否確認をしてほしいか【複数回答】	104
24 終活について.....	105
(1) 終活を行う予定の有無.....	105
25 仙台市への意見・要望について（自由記述）	106
第4章 調査結果の分析.....	109
1 調査対象者の属性	109
(1) 性別・年齢	109
(2) 世帯の状況	110
2 健康状態について	112
(1) 健康状態.....	112
3 楽しさ・生きがいについて.....	114
(1) 楽しさや生きがいを感じる事【複数回答】	114
4 仕事について.....	117
(1) 現在の仕事の有無	117
(2) 今後の仕事の意向	119
5 社会参加の状況と社会貢献について	124
(1) 社会参加の状況【複数回答】	124
(2) 地域活動や福祉活動に参加しやすくするために 必要なこと【複数回答】	129
(3) 地域社会に貢献してみたいと思うこと【複数回答】	131
(4) 地域社会に貢献してみたいと思う理由【複数回答】	133
(5) 地域社会に貢献する考えがない理由【複数回答】	135
6 日常生活について.....	137
(1) 日常生活に対する不安【複数回答】	137

7	外出について.....	141
	（1）外出の頻度.....	141
	（2）外出の際の交通手段【複数回答】.....	145
	（3）外出の目的【複数回答】.....	147
	（4）外出の際に困ること【複数回答】.....	148
	（5）外出しない理由【複数回答】.....	149
8	買い物について.....	150
	（1）買い物の頻度.....	150
	（2）買い物の手段【複数回答】.....	152
9	地域社会との関わり方について.....	153
	（1）インターネットやスマートフォン等の活用頻度【複数回答】.....	153
	（2）近隣との付き合い状況.....	155
10	住宅、住み替え意向について.....	157
	（1）居住形態.....	157
	（2）住宅に関して困っていること【複数回答】.....	159
	（3）介護が必要になった際の住み替えの意向.....	161
11	本人・世帯の年間総収入について.....	163
	（1）本人の年間総収入.....	163
	（2）世帯の年間総収入.....	165
12	介護保険料について.....	167
	（1）保険料段階.....	167
	（2）保険料の負担感.....	169
	（3）ひと月あたりの妥当と考える保険料額.....	174
	（4）保険料と介護サービスのあり方.....	177
	（5）市独自の介護サービスと保険料のあり方.....	182
13	介護保険制度について.....	187
	（1）介護保険制度の仕組みについての周知状況.....	187
	（2）今後利用したい介護サービス.....	188
	（3）その介護サービスを選んだ理由【複数回答】.....	190
	（4）介護保険制度の利点【複数回答】.....	194
	（5）介護保険制度で不十分なもの【複数回答】.....	198
14	地域包括支援センターについて.....	202
	（1）地域包括支援センターの認知度.....	202
	（2）地域包括支援センターの利用経験.....	204

(3) 地域包括支援センターに今後期待すること【複数回答】	206
15 高齢者福祉サービスについて.....	207
(1) 現在利用しているサービス【複数回答】	207
(2) 今後利用したいサービス【複数回答】	209
(3) 地域のボランティアやNPO等の支援で良い 訪問介護系サービスの種類【複数回答】	211
(4) 閉じこもり予防に良いと考える通いの場の種類【複数回答】	212
(5) 高齢者を支援する仕事やボランティア活動への取り組み意向	214
(6) 活動中または取り組みたい活動内容【複数回答】	216
(7) 取り組みたい活動に対する報酬額	217
(8) 取り組みをはじめる際のきっかけ【複数回答】	218
(9) 取り組みたくない理由【複数回答】	219
(10) 高齢者福祉サービスの利用者負担金の考え方.....	221
16 介護予防について.....	223
(1) 介護予防の認知度	223
(2) 介護予防についての取り組み状況	225
(3) 介護予防のために取り組んでいること【複数回答】	227
(4) 介護予防に取り組まない理由	229
(5) 介護予防に関し仙台市に力を入れて欲しいこと【複数回答】	231
17 認知症対策について.....	233
(1) 認知症の人と接する機会の有無	233
(2) 認知症の人と接した経験【複数回答】	235
(3) 認知症に対するイメージ	236
(4) 認知症の方または認知症になった際の不安感【複数回答】	239
(5) 認知症の家族がいる方または家族が 認知症になった際の不安感【複数回答】	241
(6) 認知症になっても安心して生活するために 必要なこと【複数回答】	244
18 地域包括ケアシステムについて.....	246
(1) 地域包括ケアシステムのために必要なこと【複数回答】	246
19 健康や福祉の情報入手について.....	248
(1) 健康や福祉に関する情報の入手先【複数回答】	248
20 相談相手について.....	250
(1) 悩みごとの相談相手【複数回答】	250

21	高齢者虐待防止について	252
	（1）高齢者に対する虐待の防止のために 必要な取り組み【複数回答】	252
22	孤立死について	254
	（1）孤立死に対する考え	254
	（2）孤立死を防ぐために有効な手段【複数回答】	256
23	災害時の安否確認について	258
	（1）災害時には誰に安否確認をしてほしいか【複数回答】	258
24	終活について	260
	（1）終活を行う予定の有無	260
25	仙台市への意見・要望について（自由記述）	262
	資料編（調査票）	275

第1章

調査の実施概要 (高齢者一般調査)

第1章 調査の実施概要

1 調査目的

仙台市高齢者保健福祉計画策定のための実態調査（高齢者一般調査）は、65歳以上の高齢者の生活実態や、高齢者福祉サービスの利用動向及び今後の利用意向等を把握し、次期高齢者保健福祉計画（計画期間：令和3年度～令和5年度）の策定にあたっての基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査設計

調査対象者	令和元年9月末において、仙台市介護保険被保険者資格を有している高齢者（約253,000人）から、介護保険事業計画策定のための実態調査の対象者として抽出された方を除いて無作為抽出した方	5,000人
調査方法	調査対象者に調査票を郵送し、記入後の調査票を同封の返信用封筒にて返送する郵送方式にて実施	
調査基準日	令和元年11月1日	
調査期間	令和元年10月31日～令和元年11月20日	
調査票の設問内容と項目数	1 調査対象者の属性	問1～5
	2 健康状態について	問6～7
	3 楽しさ・生きがいについて	問8
	4 仕事について	問9～10
	5 社会参加の状況と社会貢献について	問11～13
	6 日常生活について	問14
	7 外出について	問15
	8 買い物について	問16～17
	9 社会との係わり方について	問18～19
	10 住宅、住み替え意向について	問20～22
	11 本人・世帯の年間総収入について	問23～24
	12 介護保険料について	問25～29
	13 介護保険制度について	問30～33
	14 地域包括支援センターについて	問34～35
	15 高齢者福祉サービスについて	問36～41
	16 介護予防について	問42～44
	17 認知症対策について	問45～49
	18 地域包括ケアシステムについて	問50
	19 健康や福祉の情報入手について	問51
	20 相談相手について	問52
	21 高齢者虐待防止について	問53
	22 孤立死について	問54～55
	23 災害時の安否確認について	問56
	24 終活について	問57
	25 仙台市への意見・要望について（自由記述）	問58

※調査票は資料編に掲載しています。

3 調査の回答状況

調査票区分	配布数	有効回収数	有効回収率	集計対象数※
高齢者保健福祉計画策定のための実態調査（一般高齢者）	5,000人	3,269人	65.4%	3,242人

※有効回収数から、「死亡」や「障害等により回答できない」等を除いたもの。

4 報告書を読む際の留意点

- ① 調査数（ n =Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことであり、質問によって異なる場合があります。
- ② 回答の構成比は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。従って、単一選択式の質問においては、回答比率を合計しても100%にならないことがあります。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数選択式の質問においては、各質問の回答数（ n ）を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える場合があります。
- ③ 集計表や図では、選択肢の語句を一部簡略化してあらわしている場合があります。

第2章

分析結果の概要 (高齢者一般調査)

第2章 分析結果の概要

1 調査対象者の属性

■調査票の記入者

調査票の記入者は「本人」(90.8%)が最も多く、次いで、「配偶者(夫または妻)」(2.9%)、「子」(1.1%)となっています。(P.37)

■性別

性別は、「男性」(45.5%)、「女性」(50.9%)となっています。(P.37)

■年齢

年齢は、「65～69歳」(28.6%)、「70～74歳」(28.5%)がともに多く、前期高齢者(65～74歳)が57.1%を占めています。

なお、前回調査(平成28年度)では、「65～69歳」が30.6%、「70～74歳」が22.9%でした。(P.38)

■世帯の状況

世帯の状況は、「夫婦のみ(ともに65歳以上)」(40.2%)が最も多く、次いで、「その他の世帯」(27.3%)、「ひとり暮らし(有料老人ホームや軽費老人ホーム(ケアハウス等)などに入所している場合を含む)」(15.1%)となっています。

なお、65歳以上の高齢者のみの世帯の割合は59.0%で、前回調査(平成28年度)とほぼ同様(58.3%)の結果となっています。

性別にみると、「ひとり暮らし(有料老人ホームや軽費老人ホーム(ケアハウス等)などに入所している場合を含む)」は男性(10.8%)に比べて女性(19.7%)で多くなっています。

年齢別にみると、80～84歳、90歳以上では「ひとり暮らし(有料老人ホームや軽費老人ホーム(ケアハウス等)などに入所している場合を含む)」が20%を超えて、他の年齢層に比べて多くなっています。また、70～79歳では「夫婦のみ(ともに65歳以上)」が40%を超えて、他の年齢層に比べて多くなっています。

居住地域別にみると、青葉区では「ひとり暮らし(有料老人ホームや軽費老人ホーム(ケアハウス等)などに入所している場合を含む)」が17.8%、若林区では「その他の世帯」が38.2%と、他の地域に比べて多くなっています。(P.38, P.110～P.111)

■居住地域

区別の構成比は、「青葉区」26.6%、「宮城野区」15.4%、「若林区」9.4%、「太白区」22.3%、「泉区」22.0%となっています。これは、本市の区別の高齢者の人口比とほぼ同じ割合となっています。(P.40～P.41)

2 健康状態について

■健康状態

健康状態は、「まあまあ健康」（66.8%）が最も多く、「とても健康」（15.3%）を合わせた82.1%が健康な状況です。一方、「あまり健康ではない」（10.9%）と「健康ではない」（3.5%）は合わせて14.4%となっています。

なお、「とても健康」と「まあまあ健康」を合わせると、前回調査（平成28年度）より5.7ポイント高くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「とても健康」、「まあまあ健康」が少なくなり、「あまり健康ではない」、「健康ではない」が多くなっています。（P.42, P.112～P.113）

■日常生活の状況について

日常生活の状況は、「普通にできる」がどの項目も87.4～97.7%と最も多くなっています。

なお、前回調査（平成28年度）でも、「普通にできる」がどの項目も78.6～92.1%を占めており、前回調査より日常生活の自立度の高い人が多くなっています。（P.43）

3 楽しさ・生きがいについて

■楽しさや生きがいを感じること

楽しさやいきがいを感じることは、多い順に「趣味・学習」（53.5%）、「友人・知人とのつきあいなど」（51.0%）、「子や孫の世話など家族との団らん」（34.5%）、「運動・スポーツ」（32.8%）となっています。また、「特にない」と回答した方は8.3%となっています。

なお、前回調査（平成28年度）では、多い順に「友人・知人とのつきあいなど」（49.5%）、「趣味・学習」（48.0%）、「子や孫の世話など家族との団らん」（31.8%）、「運動・スポーツ」（27.0%）と順位は異なるもののほぼ同様の結果となっています。

性別にみると、男性では「運動・スポーツ」、「仕事・就労」が多く、女性では「友人・知人とのつきあいなど」が多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「町内会・自治会・子供会などの地域活動」が多くなっています。一方、概ね年齢が低くなるにしたがって、「子や孫の世話など家族との団らん」、「運動・スポーツ」が多くなっています。

居住地別にみると、若林区では「子や孫の世話など家族との団らん」が41.8%と、他の地域に比べて多くなっています。

世帯状況別にみると、その他の世帯では「子や孫の世話など家族との団らん」が多く、ひとり暮らしの世帯で少なくなっています。夫婦のみ（どちらかが65歳以上）の世帯では「仕事・就労」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、楽しさや生きがいを感じる

具体的な活動内容への回答が多くなっています。

現在の仕事の有無別にみると、仕事をしている方の70.8%は「仕事・就労」が楽しさや生きがいを感じる活動であると回答し、「趣味・学習」、「友人・知人とのつきあいなど」を上回っています。（P.44, P.114～P.116）

4 仕事について

■現在の仕事の有無

現在の仕事の有無は、「仕事をしていない」が72.5%、「仕事をしている」が26.7%となっています。

なお、前回調査（平成28年度）では、「仕事をしていない」が78.2%、「仕事をしている」が21.2%で、前回より仕事をしている方の割合が増えています。

性別にみると、男性では「仕事をしている」（35.1%）が女性（19.5%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「仕事をしている」が少なくなっています。

居住地域別にみると、「仕事をしている」は宮城野区で29.5%、若林区で28.1%と、他の地域に比べてやや多くなっています。

健康状態別にみると、健康状態が悪くなるにしたがって、「仕事をしていない」が多くなっています。一方、とても健康な方の35.8%、まあまあ健康な方の26.9%は「仕事をしている」となっています。（P.45, P.117～P.118）

■今後の仕事の意向

今後の仕事の意向は、「仕事をしたくない（仕事をやめたい）」（37.9%）が「仕事をしたい（続けたい）」（31.5%）を上回っています。

なお、前回調査（平成28年度）では、「仕事をしたくない（仕事をやめたい）」が36.3%、「仕事をしたい（続けたい）」が27.9%で、前回より「仕事をしたい（続けたい）」方が3.6ポイント高くなっています。

性別にみると、男性では「仕事をしたい（続けたい）」（39.9%）が女性（24.5%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「仕事をしたい（続けたい）」が多くなっており、65～69歳で46.6%、70～74歳で35.9%となっています。

居住地域別にみると、泉区では「仕事をしたくない（仕事をやめたい）」が44.8%と、他の地域に比べて多くなっています。

本人の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、「仕事をしたい（続けたい）」が多くなっています。

世帯の年間総収入額別にみると、100万円以上では、概ね年収が高くなるにしたがって、「仕事をしたい（続けたい）」が多くなっています。

健康状態別にみると、健康状態がよくなるにしたがって、「仕事をしたい（続けたい）」が多くなっています。

現在の仕事の有無別にみると、仕事をしている方の83.3%は「仕事をしたい（続けたい）」と回答しています。（P.45, P.119～P.123）

5 社会参加の状況と社会貢献について

■社会参加の状況

社会参加の状況は、「特に参加していない」（45.4%）が最も多いものの、次いで、「趣味関係のグループ」（28.1%）、「スポーツ関係のグループやクラブ」（21.7%）、「町内会・自治会」（13.6%）となっています。

性別にみると、女性では「趣味関係のグループ」、「スポーツ関係のグループやクラブ」、「学習・教養サークル」が男性に比べて多くなっています。一方、男性では「特に参加していない」が女性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、70～84歳では「趣味関係のグループ」がやや多くなっています。一方、65～69歳、85歳以上では「特に参加していない」がやや多くなっています。

居住地別にみると、泉区では「趣味関係のグループ」、「スポーツ関係のグループやクラブ」が他の地域に比べて多くなっています。一方、「特に参加していない」は宮城野区で49.6%、若林区で52.0%と、他の地域に比べて多くなっています。

本人の年間総収入額別にみると、50万円未満の方の52.4%は「特に参加していない」と回答しています。

世帯の年間総収入額別にみると、概ね年収が少なくなるにしたがって、「特に参加していない」が多くなっています。

健康状態別にみると、健康状態がよくなるにしたがって、社会参加が多くなっています。

現在の仕事の有無別にみると、仕事をしていない方では「趣味関係のグループ」、「スポーツ関係のグループやクラブ」が仕事をしている方に比べて多くなっています。（P.46, P.124～P.128）

■地域活動や福祉活動に参加しやすくなるために必要なこと

地域活動や福祉活動に参加しやすくなるために必要なことは、「一人でも参加しやすい雰囲気であること」（50.6%）が最も多く、次いで、「定期的ではなくても参加できること」（45.1%）、「自分の興味や関心にあった活動があること」（44.6%）、「体力的、または精神的負担が大きくないこと」、「活動する曜日や時間が自分の生活に合っていること」（ともに39.9%）、「どのような活動があるのか情報が入手しやすいこと」（37.9%）となっています。

性別にみると、女性では「定期的ではなくても参加できること」、「体力的、または精神的負担が大きくないこと」、「活動する曜日や時間が自分の生活に合っていること」、「友人や仲間と一緒に活動できること」、「参加している友人や知人から誘いや声掛けがあること」が男

性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、地域活動や福祉活動に参加しやすくするために必要なことへの回答が少なくなり、「特にない」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、地域活動や福祉活動に参加しやすくするために必要なことへの回答が多くなり、「特にない」が少なくなっています。

現在の仕事の有無別にみると、仕事をしている方では「活動する曜日や時間が自分の生活に合っていること」、「どのような活動があるのか情報が入手しやすいこと」が仕事をしていない方に比べて多く、仕事をしていない方では「体力的、または精神的負担が大きくないこと」が仕事をしている方に比べて多くなっています。（P.47, P.129～P.130）

■地域社会に貢献してみたいと思うこと

地域社会に貢献してみたいと思うことは、「ボランティア活動」（20.9%）、「町内会・地区社会福祉協議会などの地域活動」（20.6%）、「仕事」（18.9%）、「老人クラブでの社会参加活動」（10.8%）となっている一方、「特に何もする考えはない」（33.6%）が最も多くなっています。

性別にみると、男性では「仕事」（24.5%）が女性（14.4%）を大きく上回っています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「ボランティア活動」、「仕事」が多くなっています。一方、年齢が高くなるにしたがって、「特に何もする考えはない」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、地域社会に貢献してみたいと思う活動が多くなっています。

現在の仕事の有無別にみると、仕事をしている方の52.3%は「仕事」で貢献してみたいと思っています。（P.48, P.131～P.132）

■地域社会に貢献してみたいと思う理由

地域社会に貢献してみたいと思う理由は、「自分自身が生きがいを感じたい」（68.1%）が最も多く、次いで、「年齢・性別を問わず、いろいろな人達と関わりを持ちたい」（54.0%）、「地域や社会に貢献したい」（46.9%）、「生活（収入）のため」（26.7%）となっており、順番は前回と変わっていません。

なお、「自分自身が生きがいを感じたい」は前回調査（平成28年度）の59.1%より9.0ポイント高くなっています。

性別にみると、男性では「地域や社会に貢献したい」、「生活（収入）のため」が女性に比べて多く、女性では「自分自身が生きがいを感じたい」、「年齢・性別を問わず、いろいろな人達と関わりを持ちたい」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「年齢・性別を問わず、いろいろな人達と関わりを持ちたい」が多くなり、「生活（収入）のため」が少なくなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、「自分自身が生きがいを感じたい」、「年齢・性別を問わず、いろいろな人達と関わりを持ちたい」が多くなっています。

現在の仕事の有無別にみると、両者ともに「自分自身が生きがいを感じたい」が最も多く

なっています。また、仕事をしている方では「生活（収入）のため」が、仕事をしていない方を41.8ポイント上回っています。一方、仕事をしていない方では「年齢・性別を問わず、いろいろな人達と関わりを持ちたい」、「地域や社会に貢献したい」において、仕事をしている方を10ポイント以上上回っています。（P.49, P.133～P.134）

■地域社会に貢献する考えがない理由

地域社会に貢献する考えがない理由は、「のんびり悠々自適に過ごしたい」（45.6%）が最も多く、次いで、「身体的な理由があり、活動できない」（29.8%）、「人づきあいが、わずらわしい」（28.9%）となっています。なお、「必要性を感じない」は17.4%となっています。

前回調査（平成28年度）より「身体的な理由があり、活動できない」（42.9%）は13.1ポイント低くなっている一方、「のんびり悠々自適に過ごしたい」（36.6%）は9.0ポイント、「忙しくて時間がない」（8.4%）は7.8ポイント、「必要性を感じない」（11.3%）は6.1ポイント、「人づきあいが、わずらわしい」（24.3%）は4.6ポイント高くなっています。

性別にみると、男性では「のんびり悠々自適に過ごしたい」（48.4%）が女性（43.0%）に比べて多く、女性では「忙しくて時間がない」（20.0%）が男性（12.4%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「忙しくて時間がない」が多くなっています。

健康状態別にみると、健康状態が悪くなるにしたがって、「身体的な理由があり、活動できない」が多くなっています。一方、「のんびり悠々自適に過ごしたい」、「人づきあいが、わずらわしい」、「必要性を感じない」、「忙しくて時間がない」は、健康状態がよい方で多くなっています。（P.50, P.135～P.136）

6 日常生活について

■日常生活に対する不安

日常生活に対する不安は、「自身や家族の健康のこと」（64.7%）が最も多く、次いで、「自身や家族の介護のこと」（22.5%）、「生活費のこと」（22.4%）となっています。

前回調査（平成28年度）より「物忘れをすること」（21.7%）は5.9ポイント、「生活費のこと」（26.6%）、「特に不安を感じることはない」（21.4%）はともに4.2ポイント低くなっています。

性別にみると、男性では「自身や家族の健康のこと」、「仕事のこと」が女性に比べて多くなっています。一方、女性では「特に不安を感じることはない」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「物忘れをすること」、「火災や防犯のこと」、「掃除や洗濯など家事のこと」、「食事のこと」が多くなり、「仕事のこと」、「日常的な金銭管理のこと」が少なくなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「物忘れをすること」、「火災や防犯のこと」、「住まいのこと」、「掃除や洗濯など家事のこと」、「食事のこと」、「相談相手がいないこと」が多くなっています。

本人の年間総収入額別にみると、年収が高くなるにしたがって、「生活費のこと」が少なくなっており、50万円未満では34.0%となっています。

世帯の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、「生活費のこと」、「住まいのこと」が少なくなっています。

健康状態別にみると、健康状態が悪くなるにしたがって、「自身や家族の健康のこと」、「自身や家族の介護のこと」、「生活費のこと」が多くなっています。

現在の仕事の有無別にみると、仕事をしている方では「生活費のこと」、「仕事のこと」が仕事をしていない方に比べて多くなっています。（P.51, P.137～P.140）

7 外出について

■外出の頻度

外出の頻度は、「ほぼ毎日」(36.8%)が最も多く、次いで、「週に2～3日程度」(27.2%)、「週に4～5日程度」(22.4%)となっています。一方、「ほとんど外出しない」(1.4%)という回答もありました。

なお、前回調査(平成28年度)では、「ほぼ毎日」が31.9%、「週に2～3日程度」が27.0%、「週に4～5日程度」が21.2%で、今回は「ほぼ毎日」が4.9ポイント、「週に4～5日程度」が1.2ポイント高く、外出頻度の高い人がやや増えています。

性別にみると、男性では「ほぼ毎日」(44.9%)が女性(29.7%)に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、外出頻度が低くなっています。

本人の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、外出頻度が高くなっています。

世帯の年間総収入額別にみると、年収が高くなるにしたがって、外出頻度が高くなっています。

健康状態別にみると、健康状態がよくなるにしたがって、外出頻度が高くなっています。

現在の仕事の有無別にみると、仕事をしている方の59.6%は「ほぼ毎日」、21.5%は「週に4～5日」外出し、合わせて81.1%を占めています。（P.52, P.141～P.144）

■外出の際の交通手段

外出の際の交通手段は、「徒歩」(59.2%)が最も多く、次いで、「バス、地下鉄、電車」(54.5%)、「自家用車(自分で運転する)」(50.3%)となっています。

性別にみると、男性では「自家用車(自分で運転する)」が73.8%と、女性に比べて多くなっています。一方、女性では「バス・地下鉄・電車」、「自家用車(送迎してもらう)」、「タクシー」が男性に比べて多くなっています。

第2章 分析結果の概要（高齢者一般調査）

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがって、「自家用車（自分で運転する）」、「自転車、バイク」が少なくなっています。一方、概ね「自家用車（送迎してもらう）」、「タクシー」が多くなっています。

居住地域別にみると、泉区では「自家用車（自分で運転する）」が58.9%、若林区では「自転車、バイク」が31.9%と、他の地域に比べて多くなっています。

現在の仕事の有無別にみると、仕事をしている方では「自家用車（自分で運転する）」（70.4%）が多く、仕事をしていない方では「徒歩」（64.2%）が多くなっています。（P.53, P.145～P.146）

■外出の目的

外出の目的は、「買い物のため」（76.7%）が最も多く、次いで、「趣味、スポーツ、娯楽などのため」（49.9%）、「通院のため」（42.9%）となっています。

性別にみると、男性では「趣味、スポーツ、娯楽などのため」、「仕事のため」が女性に比べて多く、女性では「買い物のため」、「通院のため」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「通院のため」、「役所や銀行などでの手続きや相談のため」が多くなっています。一方、概ね年齢が低くなるにしたがって、「買い物のため」、「趣味、スポーツ、娯楽などのため」、「仕事のため」が多くなっています。（P.54, P.147）

■外出の際に困ること

外出の際に困ることは、「特にない」（51.7%）が最も多いものの、次いで、「道路や駅などの階段や段差」（24.7%）、「街を走っている自動車が危険なこと」（12.6%）、「交通費がかかること」（11.7%）、「バス、地下鉄、電車などの乗り降り」（10.9%）となっています。

性別にみると、ほとんどの項目で女性が男性を上回っています。一方、「特にない」は男性で57.7%となっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「道路や駅などの階段や段差」、「バス、地下鉄、電車などの乗り降り」、「外出先で利用する建物の手すりなどの不足」が多くなっています。（P.55, P.148）

■外出しない理由

外出しない理由は、「身体上の理由で外出が困難だから」（47.8%）が最も多く、次いで、「外出したい場所がないから」（30.4%）となっています。

なお、前回調査（平成28年度）では、「身体上の理由で外出が困難だから」が77.7%で、今回は29.9ポイント低く、「介助者がいないため外出に苦労するから」が13.6%で、今回は11.4ポイント低く、「外出したい場所がないから」が10.7%で、今回は19.7ポイント高くなっています。（P.56, P.149）

8 買い物について

■買い物の頻度

買い物の頻度は、「2～3日に1回程度」（42.9%）が最も多く、次いで、「ほぼ毎日」（18.4%）、「1週間に1回程度」（15.3%）、「4～5日に1回程度」（15.0%）となっています。

なお、前回調査（平成28年度）では、「2～3日に1回程度」が38.0%で、今回は4.9ポイント高く、「ほとんど行かない」が9.5%で、今回は5.0ポイント低くなっています。

性別にみると、「ほぼ毎日」では大きな差は見られませんが、「2～3日に1回程度」は男性に比べて女性が多く、「1週間に1回程度」は女性に比べて男性が多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、買い物に行く頻度が低くなっています。

健康状態別にみると、健康状態がよくなるにしたがって、買い物に行く頻度が高くなっています。（P.57, P.150～P.151）

■買い物の手段

買い物の手段は、「自分もしくは同居の家族がスーパー等に行っている」（84.2%）が最も多く、次いで、「コンビニ・生協等の宅配サービスを利用している」（21.8%）、「インターネットショッピングを利用している」（7.7%）となっています。

性別にみると、男性では「コンビニ・生協等の宅配サービスを利用している」（26.5%）が女性（16.6%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「コンビニ・生協等の宅配サービスを利用している」、「同居以外の家族等に買い物を頼んでいる」が多くなっています。（P.58, P.152）

9 地域社会との関わり方について

■インターネットやスマートフォン等の活用頻度

インターネットやスマートフォン等の活用頻度は、「メールで家族や知人などと交流している」（48.1%）が最も多く、次いで、「インターネットで情報を入手している」（34.5%）、「インターネットショッピングなどを利用している」（13.8%）となっています。なお、「ほとんど活用していない（端末を持っていない）」は37.0%となっています。

性別にみると、男性では「インターネットで情報を入手している」、「インターネットショッピングなどを利用している」が女性に比べて多く、女性では「メールで家族や知人などと交流している」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「メールで家族や知人などと交流している」、「インターネットで情報を入手している」が多くなり、65～69歳では50%以上となっています。一方、年齢が高くなるにしたがって、「ほとんど活用していない（端末を

持っていない)」が多くなり、80歳以上では50%以上となっています。(P.59, P.153～P.154)

■近隣との付き合い状況

近隣との付き合い状況は、「出会ったときお互いに挨拶する程度の付き合いがある」(64.2%)が最も多く、次いで、「お互いの家を行き来するなど親密な付き合いがある」(11.9%)、「町内会等の地域活動でよく一緒に活動している」(8.4%)となっています。

性別にみると、女性では「お互いの家を行き来するなど親密な付き合いがある」(16.1%)が男性(7.1%)に比べて多くなっています。

年齢別にみると、85歳未満では概ね年齢が高くなるにしたがって、「お互いの家を行き来するなど親密な付き合いがある」が多くなり、以降は減少に転じています。

居住地域別にみると、泉区では「お互いの家を行き来するなど親密な付き合いがある」が14.9%、青葉区では「出会ったときお互いにあいさつする程度の付き合いがある」が68.4%と、他の地域に比べて多くなっています。(P.60, P.155～P.156)

10 住宅、住み替え意向について

■居住形態

居住形態は、「持ち家（一戸建て）」(72.1%)が最も多く、次いで、「持ち家（マンションなど）」(13.3%)、「民間借家、賃貸マンション、アパート」(8.8%)となっています。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「持ち家（一戸建て）」が最も多くなっています。

居住地域別にみると、泉区では「持ち家（一戸建て）」が87.9%、青葉区で「持ち家（マンションなど）」が19.8%、若林区では「民間借家、賃貸マンション、アパート」が14.7%と、他の地域に比べて多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「民間借家、賃貸マンション、アパート」、「持ち家（マンションなど）」が多くなっています。また、夫婦のみの世帯でも「持ち家（マンションなど）」が多くなっています。(P.61, P.157～P.158)

■住宅に関して困っていること

住宅に関して困っていることは、「草むしりや植木など庭や家周りの手入れ」(34.6%)が最も多く、次いで、「老朽化」(22.9%)、「固定資産税が高い」(21.3%)、「掃除や片付けが大変」(12.3%)、「バリアフリーになっていない」(10.6%)となっています。また、「特になし」も30.9%と多く、全ての項目が前回調査（平成28年度）とほぼ同様の結果になっています。

性別にみると、男性では「固定資産税が高い」が女性に比べて多く、女性では「草むしりや植木など庭や家周りの手入れ」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「草むしりや植木など庭や家周りの手入れ」、「掃除や片付けが大変」が多くなっています。

居住地域別にみると、泉区では「草むしりや植木など庭や家周りの手入れ」、「老朽化」が他の地域に比べて多くなっています。

健康状態別にみると、健康状態が悪くなるにしたがって、「老朽化」、「固定資産税が高い」、「バリアフリーになっていない」、「住宅ローンが大変」が多くなっています。（P.62, P.159～P.160）

■介護が必要になった際の住み替えの意向

介護が必要になった際の住み替えの意向は、「今のところに住み続けたい」（39.0％）が最も多く、次いで、「どちらかというところ今のところに住み続けたい」（21.6％）が続き、両回答を合わせた《住み続けたい》が60.6％を占めています。

性別にみると、男性では「今のところに住み続けたい」（40.5％）が女性（37.5％）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがって、「今のところに住み続けたい」が多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「住み替えたい」が多くなっています。

健康状態別にみると、健康状態が悪くなるにしたがって、「今のところに住み続けたい」、「どちらかというところ今のところに住み続けたい」が少なくなっています。（P.63, P.161～P.162）

11 本人・世帯の年間総収入について

■本人の年間総収入

本人の年間総収入は、「100万円～200万円未満」（29.5％）が最も多く、次いで、「200万円～300万円未満」（22.2％）、「50万円～100万円未満」（20.6％）となっています。

性別にみると、男性では《200万円以上》（65.5％）が女性（17.7％）に比べて多く、女性では《200万円未満》（77.4％）が男性（30.1％）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、65歳～79歳では《50万円～200万円未満》が多くなっています。

世帯状況別にみると、夫婦のみ（どちらかが65歳以上）の世帯を除いて、《200万円未満》が50％以上となっており、ひとり暮らしの世帯では「100万円～200万円未満」が46.8％となっています。（P.64, P.163～P.164）

■世帯の年間総収入

本人も含めた世帯全員の年間総収入は、「300万円～500万円未満」（28.3％）が最も多く、次いで、「200万円～300万円未満」（24.6％）、「100万円～200万円未満」（13.5％）となっています。

性別にみると、男性では《300万円以上》（55.1％）が女性（39.9％）に比べて多く、女性では《300万円未満》（44.5％）が男性（38.0％）に比べて多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では《200万円未満》が51.0％となっていま

す。(P.65, P.165~P.166)

12 介護保険料について

■保険料段階

保険料段階は、「第8段階」（11.6%）が最も多く、次いで、「第6段階」（9.7%）、「第7段階」（9.3%）、「第9段階」（9.0%）となっています。

性別にみると、男性では「第8段階」から「第10段階」が多く、女性では「第2段階」、「第3段階」、「第5段階」、「第6段階」が多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「第1段階」から「第4段階」、夫婦のみ（どちらかが65歳以上）の世帯では「第8段階」から「第10段階」が他の世帯状況に比べて多くなっています。(P.66, P.167~P.168)

■保険料の負担感

保険料の負担感は、「なんとか支払える額である」（60.6%）が最も多く、「無理なく支払える額である」（11.5%）を合わせると72.1%が《支払える額》と考えています。

本人の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、「無理なく支払える額である」が多くなっています。

世帯の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、「無理なく支払える額である」が多くなっています。

健康状態別にみると、健康状態がよくなるにしたがって、「無理なく支払える額である」、「何とか支払える額である」が多くなっています。

保険料段階別にみると、概ね保険料段階が高くなるにしたがって、「無理なく支払える額である」が多くなっています。(P.66, P.169~P.173)

■ひと月あたりの妥当と考える保険料額

ひと月あたりの妥当と考える保険料額は、「5,000円程度」（19.1%）が最も多く、次いで、「3,000円程度」（15.7%）、「2,000円程度」（13.2%）となっています。また、「わからない」は15.1%となっています。

性別にみると、男性では「5,000円程度」が23.7%と、女性（15.4%）に比べて多くなっています。一方、女性では「3,000円程度」が21.2%と、男性（10.2%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがって、《5,000円以下》を妥当と考える人が多くなっています。

本人の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、妥当と考える保険料が高くなっています。

世帯の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、妥当と考える保険料が高くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、妥当と考える保険料が高くなっています。（P.67, P.174～P.176）

■保険料と介護サービスのあり方

保険料と介護サービスのあり方は、「保険料も介護サービスも現状の程度でよい」（25.3%）が最も多く、次いで、「介護サービスの水準を今より抑えて、保険料が低くなるほうがよい」（20.8%）、「保険料が高くなってもよいから、施設を増やすなど介護サービスを充実させたほうがよい」（8.5%）となっています。

本人の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、「保険料が高くなってもよいから、施設を増やすなど介護サービスを充実させたほうがよい」が多くなっています。

世帯の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、「保険料が高くなってもよいから、施設を増やすなど介護サービスを充実させたほうがよい」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、「保険料も介護サービスも現状の程度でよい」が多くなっています。

保険料段階別にみると、概ね保険料段階が高くなるにしたがって、「保険料が高くなってもよいから、施設を増やすなど介護サービスを充実させたほうがよい」が多くなっています。

保険料の負担感別にみると、概ね保険料の負担感が高くなるにしたがって、「介護サービスの水準を今より抑えて、保険料が低くなるほうがよい」が多くなっています。（P.68, P.177～P.181）

■市独自の介護サービスと保険料のあり方

市独自の介護サービスと保険料のあり方は、「保険料をできるだけ抑えるためにも、現在のままでよい」（46.6%）が最も多く、一方、「保険料が高くなってもよいから、介護サービスを充実させたほうがよい」は8.8%となっています。また、「わからない」も31.5%と多くなっています。

本人の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、「保険料が高くなってもよいから、介護サービスを充実させたほうがよい」が多くなっています。

世帯の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、「保険料が高くなってもよいから、介護サービスを充実させたほうがよい」が多くなっています。

健康状態別にみると、いずれの健康状態においても、「保険料をできるだけ抑えるためにも、現在のままでよい」が最も多くなっています。

保険料段階別にみると、概ね保険料段階が高くなるにしたがって、「保険料が高くなってもよいから、介護サービスを充実させたほうがよい」が多くなっています。

保険料の負担感別にみると、保険料の負担感が高くなるにしたがって、「保険料が高くなってもよいから、介護サービスを充実させたほうがよい」が少なくなっています。（P.69, P.182～P.186）

13 介護保険制度について

■介護保険制度の仕組みについての周知状況

介護保険制度の仕組みについての周知状況は、「よく知っている」（2.0%）と「おおよその内容は知っている」（27.1%）を合わせた《知っている》が29.1%、一方、「あまりよく知らない」（47.3%）と「ほとんどわからない」（18.4%）を合わせた《知らない》が65.7%となっており、《知らない》が《知っている》を大きく上回っています。

性別にみると、女性では「おおよその内容は知っている」（29.4%）が男性（24.7%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、85～89歳では「おおよその内容は知っている」が32.1%と、他の年齢層に比べてやや多くなっています。（P.70, P.187）

■今後利用したい介護サービス

介護が必要となった場合に使いたい介護サービスは、「自身の状態に応じて、通所型サービスを主に、併せて訪問介護も使うことが出来るサービス」（23.7%）が最も多く、次いで、「自身の状態に応じて、自宅での定期訪問介護に加えて、夜間や緊急時に随時の訪問介護を組み合わせて使うことが出来るサービス」（22.5%）、「自宅での定期訪問介護サービス」（15.3%）となっています。

性別にみると、男性では「自宅での定期訪問介護サービス」、「自身の状態に応じて、自宅での定期訪問介護に加えて、夜間や緊急時に随時の訪問介護を組み合わせて使うことが出来るサービス」が女性に比べて多くなっています。一方、女性では「自身の状態に応じて、通所型サービスを主に、併せて訪問介護も使うことができるサービス」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、85歳以上では「有料老人ホームで提供される食事、介護サービス」が多くなっています。（P.71, P.188～P.189）

■その介護サービスを選んだ理由

使いたい介護サービスを選んだ理由は、「自宅で暮らし続けたいから」（46.0%）が最も多く、次いで、「住み慣れた場所で生活したいから」（39.1%）、「介護する家族の負担を軽くしたいから」（38.7%）となっています。

なお、前回調査（平成28年度）では、「自宅で暮らし続けたいから」が35.1%で、今回は10.9ポイント高く、「住み慣れた場所で生活したいから」が29.8%で、今回は9.3ポイント高く、「自宅で介護サービスを受けるのは大変だから」が21.2%で、今回は10.8ポイント低く、「介護する家族の負担を軽くしたいから」が47.7%で、今回は9.0ポイント低くなっています。

性別にみると、男性では「自宅で暮らし続けたいから」、「家族とともに暮らせるから」が女性に比べて多くなっています。一方、女性では「介護する家族の負担を軽くしたいから」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「より手厚い介護を受けたいから」が多くなっています。

世帯状況別にみると、その他の世帯では「介護する家族の負担を軽くしたいから」が他の世帯状況に比べて最も多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態が悪くなるにしたがって、「自宅で暮らし続けたいから」、「住み慣れた場所で生活したいから」が少なくなっています。

保険料段階別にみると、第13段階では「自宅で暮らし続けたいから」、「住み慣れた場所で生活したいから」、「家族とともに暮らせるから」、「他人との共同生活をしたくないから」が他の段階に比べてやや多くなっています。

保険料の負担感別にみると、概ね保険料の負担感が低くなるにしたがって、「自宅で暮らし続けたいから」、「住み慣れた場所で生活したいから」が多くなっています。(P.72, P.190～P.193)

■介護保険制度の利点

介護保険制度のサービスを使うことによる利点は、「介護者や家族の身体的負担が減る」(67.7%)、「介護者や家族の精神的負担が減る」(63.8%)が多く、家族の負担軽減が上位となっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「介護者や家族の身体的負担が減る」、「介護者や家族の精神的負担が減る」、「安い費用でサービスが利用できる」、「さまざまなサービスが利用できる」、「事業者を自由に選んでサービスを受けられる」が多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「介護者や家族の身体的負担が減る」、「介護者や家族の精神的負担が減る」が他の世帯状況に比べて少なくなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態が悪くなるにしたがって、「介護者や家族の身体的負担が減る」、「介護者や家族の精神的負担が減る」が少なくなっています。

保険料の負担感別にみると、概ね保険料の負担感が低くなるにしたがって、「介護者や家族の身体的負担が減る」、「介護者や家族の精神的負担が減る」が多くなっています。(P.73, P.194～P.197)

■介護保険制度で不十分なもの

介護保険制度で不十分なものは、「要介護認定の申請や契約など、手続きが面倒くさい」(30.4%)が最も多く、次いで、「どの事業者を選んだらよいかわからない」(21.4%)、「サービスの利用と費用負担の関係がわかりにくい」(19.3%)、「介護保険のサービスを利用しなくても、保険料を納めなければならない」(17.7%)となっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「要介護認定の申請や契約など、手続きが面倒くさい」、「どの事業者を選んだらよいかわからない」、「サービスの利用と費用負担の関係がわかりにくい」、「施設や事業者が満員の状態で、希望するサービスを利用できない」、「費用の関係で希望するサービスを利用できない」が多くなっています。

保険料段階別にみると、概ね第9段階から第11段階までは「サービスの利用と費用負担の関係がわかりにくい」がやや多くなっています。また、第4段階、第5段階では「介護保

険のサービスを利用しなくても、保険料を納めなければならない」が多くなっています。

保険料の負担感別にみると、ほとんどの項目で、概ね保険料の負担感が高くなるにしたがって、回答の割合が高くなっています。（P.74, P.198～P.201）

14 地域包括支援センターについて

■地域包括支援センターの認知度

地域包括支援センターの認知度は、「名前は知っているが、どのようなサービスが提供されているかは知らない」（49.8%）と「名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている」（23.5%）を合わせた《知っている》が73.3%を占めています。

前回調査（平成28年度）に比べ、「名前は知っているが、どのようなサービスが提供されているかは知らない」（44.6%）は5.2ポイント、「名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている」（22.2%）は1.3ポイント高くなり、これらを合わせた《知っている》（66.8%）は6.5ポイント高くなっています。

性別にみると、女性では「名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている」（29.2%）が男性（17.7%）に比べて多くなっています。一方、男性では「名前も知らない」（28.0%）が女性（14.4%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、「名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている」は、75～79歳を底辺として、認知度が変わります。

世帯状況別にみると、夫婦のみ（どちらかが65歳以上）の世帯では「名前も知っているし、どのようなサービスが提供されているかも知っている」が少なくなっています。（P.75, P.202～P.203）

■地域包括支援センターの利用経験

地域包括支援センターの利用経験は、「利用したことがない」が72.9%を占めており、「利用したことがある」（25.2%）を大きく上回っています。

性別にみると、女性では「利用したことがある」（29.0%）が男性（21.3%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、65～69歳と85歳以上では「利用したことがある」が30%前後となっています。

世帯状況別にみると、上記以外で全員が65歳以上の世帯の45.0%は「利用したことがある」となっています。（P.76, P.204～P.205）

■地域包括支援センターに今後期待すること

地域包括支援センターに今後期待することは、「介護や保健福祉サービスの相談受付」（50.7%）が最も多く、次いで、「地域の医療機関や福祉機関などとのネットワークの充実」（31.8%）、「認知症に関する普及啓発や、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの推進」（26.5%）となっています。

この順番は前回と同様ですが、前回調査（平成28年度）より、「認知症に関する普及啓発や、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの推進」（31.0%）は4.5ポイント、「認知症の相談受付」（17.6%）は4.3ポイント、「介護や保健福祉サービスの相談受付」（54.6%）は3.9ポイント低くなっています。

性別にみると、男性では「介護予防についての相談受付」が女性に比べて多く、女性では「認知症に関する普及啓発や、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりの推進」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「介護や保健福祉サービスの相談受付」、「地域の医療機関や福祉機関などとのネットワークの充実」が少なくなり、「介護予防についての相談受付」が多くなっています。（P.77, P.206）

15 高齢者福祉サービスについて

■現在利用しているサービス

サービスの利用については、「利用しているサービスはない」が87.9%を占めています。一方、現在利用しているサービスは、「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」（2.3%）、「弁当を自宅に配達するサービス」（1.7%）、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象とした、掃除・洗濯や外出時の援助など日常生活のお手伝いをするサービス」（1.2%）となっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」が多くなっています。（P.78, P.207～P.208）

■今後利用したいサービス

今後利用したい（引き続き利用したい）サービスは、「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」（24.2%）が最も多く、次いで、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象とした、掃除・洗濯や外出時の援助など日常生活のお手伝いをするサービス」（17.6%）、「電球の交換や家具の移動などの短時間の作業援助サービス」（13.9%）、「弁当を自宅に配達するサービス」（13.3%）、「お店までの送迎をしてくれるサービス」（12.3%）、「自宅を訪問しての理容や美容を行うサービス」（10.2%）となっています。

性別にみると、女性では「電球の交換や家具の移動などの短時間の作業援助サービス」、「お店までの送迎をしてくれるサービス」、「自宅を訪問しての理容や美容を行うサービス」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、85歳以上では「自宅を訪問しての理容や美容を行うサービス」が他の年齢層に比べて多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「緊急時にボタンひとつで通報できる機器を貸し出すサービス」、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯を対象とした、掃除・洗濯や外出時の援助など日常生活のお手伝いをするサービス」、「電球の交換や家具の移動などの短時間の作業援助サービス」が多くなっています。（P.79, P.209～P.210）

■地域のボランティアやNPO等の支援で良い訪問介護系サービスの種類

地域のボランティアやNPO等の支援で良いと考える訪問介護系サービスの種類は、「掃除」(44.3%)が最も多く、次いで、「ゴミ出し」(41.8%)、「買い物・薬の受け取り」(36.9%)、となっています。

性別にみると、男性では「掃除」、「洗濯」が女性に比べて多く、女性では「ゴミ出し」、「買い物・薬の受け取り」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、具体的なサービスへの回答が多くなっています。(P.80, P.211)

■閉じこもり予防に良いと考える通いの場の種類

閉じこもり予防に良いと考える通いの場の種類は、「軽運動ができる場」(52.1%)が最も多く、次いで、「健康チェックを受けられる場」(40.5%)、「レクリエーションを楽しめる場」(31.1%)、「食事ができる場」(30.3%)となっています。

性別にみると、男性では「健康チェックを受けられる場」、「レクリエーションを楽しめる場」が女性に比べて多く、女性では「軽運動ができる場」、「食事ができる場」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって回答が少なくなっていますが、「カラオケなど音楽を楽しめる場」は89歳までは大きな違いはありません。

健康状態別にみると、概ね健康状態が悪くなるにしたがって、「軽運動ができる場」、「レクリエーションを楽しめる場」が少なくなっていますが、「カラオケなど音楽を楽しめる場」は、健康状態による違いが少なくなっています。(P.81, P.212~P.213)

■高齢者を支援する仕事やボランティア活動への取り組み意向

高齢者を支援する仕事やボランティア活動への取り組み意向は、「取り組んでみたいと思わない」(66.0%)が最も多く、次いで、「取り組んでみたいと思うが、きっかけがない」(17.5%)となっています。前回調査(平成28年度)より、「取り組んでみたいと思わない」(57.3%)は8.7ポイント高くなっています。

性別にみると、男性では「取り組んでみたいと思うが、きっかけがない」(19.6%)が女性(15.9%)に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「取り組んでみたいと思うが、きっかけがない」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、「取り組んでみたいと思うが、きっかけがない」が多くなっています。(P.82, P.214~P.215)

■活動中または取り組みたい活動内容

活動中または取り組みたい活動内容は、「話し相手」(48.8%)が最も多く、次いで、「見守り」(42.6%)、「ゴミ出し」(28.7%)、「買い物・薬の受け取り」(25.8%)、「掃除」(25.4%)となっています。

性別にみると、男性では「ゴミ出し」、「掃除」、「軽微な修繕・電球の交換」、「庭木の剪定や草刈」が女性に比べて多く、女性では「話し相手」、「見守り」、「外出の付き添い」、「衣類の整理・被服の補修」、「洗濯」、「調理・配下膳」、「ベッドメイク」が男性に比べて多くなっています。（P.83, P.216）

■取り組みたい活動に対する報酬額

取り組みたい活動に対する報酬額は、「ボランティア（交通費等の実費のみ）」（34.6%）が最も多く、次いで、「ボランティア（謝礼＋交通費等の実費）」（26.2%）、「実費も不要」（15.9%）となっています。（P.84, P.217）

■取り組みをはじめる際のきっかけ

高齢者を支援する仕事やボランティア活動への取り組みをはじめる際のきっかけは、「区役所などの行政機関からの案内」（47.0%）が最も多く、次いで、「知人や近所の方の誘い」（42.6%）、「社会福祉協議会からの案内」（30.9%）、「ボランティア団体からの案内」（29.2%）となっています。

性別にみると、男性では「区役所などの行政機関からの案内」、「社会福祉協議会からの案内」、「民生委員からの誘い」、「新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報」、「家族や親せきからの誘い」が女性に比べて多くなっています。一方、女性では「知人や近所の方の誘い」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「ボランティア団体からの案内」が少なくなっています。（P.85, P.218）

■取り組みたくない理由

高齢者を支援する仕事やボランティア活動に取り組みたくない理由は、「他人の生活に入り込むことに抵抗感がある」（47.3%）が最も多く、次いで、「健康状態や体力が不十分なため」（43.3%）、「トラブルが心配」（28.7%）となっています。

性別にみると、男性では「他人の生活に入り込むことに抵抗感がある」、「興味がない」が女性に比べて多く、女性では「健康状態や体力が不十分なため」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「他人の生活に入り込むことに抵抗感がある」、「トラブルが心配」、「時間がない」が多くなっています。一方、概ね年齢が高くなるにしたがって、「健康状態や体力が不十分なため」が多くなっています。

健康状態別にみると、健康状態がよくなるにしたがって、「他人の生活に入り込むことに抵抗感がある」、「時間がない」が多くなっています。一方、健康状態が悪くなるにしたがって、「健康状態や体力が不十分なため」が多くなっています。（P.86, P.219～P.220）

■高齢者福祉サービスの利用者負担金の考え方

介護保険以外の高齢者福祉サービスの利用者負担金の考え方は、「利用者負担金もサービスも現状の程度でよい」（19.9%）が最も多く、次いで、「サービスの水準を今より抑えて

も、利用者負担金が低くなるほうがよい」（14.5%）、「利用者負担が高くなってもよいから、サービスを充実させたほうがよい」（9.7%）となっています。また、「わからない」が46.5%を占めています。

なお、前回調査（平成28年度）では、「利用者負担金もサービスも現状の程度でよい」が22.9%で、今回は3.0ポイント低くなっています。

性別にみると、男性では「サービスの水準を今より抑えても、利用者負担金が低くなるほうがよい」（17.0%）が女性（12.1%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「サービスの水準を今より抑えても、利用者負担金が低くなるほうがよい」が多くなっています。

世帯の年間総収入額別にみると、概ね年収が高くなるにしたがって、「利用者負担が高くなってもよいから、サービスを充実させたほうがよい」が多くなっています。（P.87, P.221～P.222）

16 介護予防について

■介護予防の認知度

「介護予防」という言葉を聞いたことがある人が66.8%、聞いたことがないという人は28.9%となっています。

性別にみると、女性では介護予防という言葉を知ったことがある人が71.5%と、男性（62.1%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、介護予防という言葉を知ったことがある人が少なくなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、介護予防という言葉を知ったことがある人が多くなっています。（P.88, P.223～P.224）

■介護予防についての取り組み状況

介護予防についての取り組み状況は、取り組んでいる人が52.4%、取り組んでいない人が44.1%と、取り組んでいる人が上回っています。

性別にみると、女性では介護予防に取り組んでいる人が60.1%と、男性（44.9%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、80歳未満では年齢が高くなるにしたがって、介護予防に取り組んでいる人が多くなり、以降は減少に転じています。

世帯状況別にみると、夫婦のみ（どちらかが65歳以上）の世帯では、介護予防に取り組んでいる人が他の世帯状況に比べて少なくなっています。

健康状態別にみると、健康状態がよくなるにしたがって、介護予防に取り組んでいる人が多くなっています。（P.88, P.225～P.226）

■介護予防のために取り組んでいること

介護予防のために取り組んでいることは、「散歩などの軽い運動・多く外出すること」（69.5%）が最も多く、次いで、「友人、知人とのつきあい・家族との交流」（53.8%）、「自身でのスポーツ・体力づくり」（53.1%）、「趣味・学習」（52.8%）となっており、この上位4項目は前回調査（平成28年度）と同じ項目となっています。

性別にみると、男性では「自身でのスポーツ、体力づくり」、「仕事」が女性に比べて多く、女性では「友人、知人とのつきあい・家族との交流」、「健康づくりのための教室への参加」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「自身でのスポーツ、体力づくり」、「仕事」が多くなっています。

世帯状況別にみると、その他の世帯では「友人、知人とのつきあい・家族との交流」が他の世帯状況に比べて多くなっています。

健康状態別にみると、ほとんどの項目で、概ね健康状態がよくなるにしたがって、取り組んでいることへの回答が多くなっています。（P.89, P.227～P.228）

■介護予防に取り組まない理由

介護予防に取り組まない理由は、「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がないから」（29.8%）が最も多く、次いで、「家のことや趣味などで忙しいから」（19.8%）、「今は取り組んでいないが、今後取り組む予定」（14.8%）となっています。

性別にみると、男性では「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がないから」（34.4%）が女性（24.6%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、90歳未満では概ね年齢が低くなるにしたがって、「家のことや趣味などで忙しいから」、「今は取り組んでいないが、今後取り組む予定」が多くなり、90歳以上では「外に出るのがおっくうだから」が最も多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「家のことや趣味などで忙しいから」、「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がないから」が少なくなっています。

健康状態別にみると、健康状態がよくなるにしたがって、「介護予防に取り組まなくても、日常生活に支障がないから」が多くなっています。（P.90, P.229～P.230）

■介護予防に関し仙台市に力を入れて欲しいこと

介護予防に関し仙台市に力を入れて欲しいことは、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」（34.3%）が最も多く、次いで、「筋力の維持・向上のための運動教室開催などの取り組み」（28.1%）、「生きがいづくりのための取り組み」（18.8%）、「閉じこもりを防止するための外出する機会の創出」（18.1%）となっています。

なお、前回調査（平成28年度）では、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」が43.8%で、今回は9.5ポイント低くなっています。

性別にみると、男性では「運動などの活動をするための場所の確保」（16.0%）が女性（10.0%）に比べて多く、女性では「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」

（37.7%）が男性（31.5%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「筋力の維持・向上のための運動教室開催などの取り組み」、「生きがいづくりのための取り組み」、「運動などの活動をするための場所の確保」、「運動などの活動に取り組んでいる団体の紹介などの情報提供」、「地域活動の推進」、「ボランティア人材の育成」が多くなっています。

世帯状況別にみると、上記以外で全員が65歳以上の世帯では「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」、「介護予防の普及啓発」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態が悪くなるにしたがって、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」、「うつについての知識の普及啓発などの取り組み」が多くなっています。一方、概ね健康状態がよくなるにしたがって、「筋力の維持・向上のための運動教室開催などの取り組み」、「生きがいづくりのための取り組み」、「運動などの活動をするための場所の確保」、「地域活動の推進」が多くなっています。（P.91, P.231～P.232）

17 認知症対策について

■ 認知症の人と接する機会の有無

認知症の人と接する機会の有無は、「ある」が48.8%、「ない」が47.3%となっています。

性別にみると、女性では認知症の人と接したことがあると回答した人が53.9%と、男性（43.9%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、認知症の人と接したことがあると回答した人が多くなっています。（P.92, P.233～P.234）

■ 認知症の人と接した経験

認知症の人と接した経験は、「家族の中に認知症の人がいる（いた）」（47.7%）が最も多く、次いで、「親せきの中に認知症の人がいる（いた）」（33.4%）、「近所の付き合いの中で、認知症の人と接したことがある」（30.2%）となっています。

性別にみると、女性では「近所の付き合いの中で、認知症の人と接したことがある」が33.5%と、男性（24.7%）に比べて多くなっています。

年齢別にみると、65～74歳では「家族の中に認知症の人がいる（いた）」が多く、70歳以上では「近所の付き合いの中で、認知症の人と接したことがある」が多くなっています。（P.93, P.235）

■ 認知症に対するイメージ

認知症に対するイメージは、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用すれば、今まで暮らしてきた地域で生活していける」（28.3%）が最も多く、次いで、「認知症になると、身の周りのことが出来なくなり、介護施設に入ってサポートを受けることが必要になる」（21.5%）となっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「認知症になっても、できないこと

を自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、自立的に生活していくことは十分可能である」が多くなっています。一方、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用すれば、今まで暮らしてきた地域で生活していける」、「認知症になると、身の周りのことが出来なくなり、介護施設に入ってサポートを受けることが必要になる」が少なくなっています。

健康状態別にみると、健康状態がよくなるにしたがって、「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、自立的に生活していくことは十分可能である」、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用すれば、今まで暮らしてきた地域で生活していける」が多くなっています。（P.94, P.236～P.238）

■認知症の方または認知症になった際の不安感

認知症の方または自身が認知症になった際の不安感は、「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか」（71.7%）が最も多く、次いで、「買い物や料理、車の運転等これまでできていたことができなくなってしまうのではないか」（57.7%）、「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」（48.9%）、「家族や大切な思い出を忘れてしまうのではないか」（46.9%）となっています。

性別にみると、男性では「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」が女性に比べて多くなっています。一方、女性では「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか」、「外出した際に家への帰り道がわからなくなったりするのではないか」、「介護施設が利用できないのではないか」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、年齢が低くなるにしたがって、「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか」、「買い物や料理、車の運転等これまでできていたことができなくなってしまうのではないか」、「経済的に苦しくなるのではないか」、「介護施設が利用できないのではないか」、「不当な扱いを受けるのではないか」が多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「必要な介護サービスを利用することができず、現在の住まいで生活できなくなるのではないか」、「どこに相談すればいいのか分からないのではないか」が多くなっています。また、上記以外で全員が65歳以上の世帯では「経済的に苦しくなるのではないか」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態が悪くなるにしたがって、「病院や診療所で治療しても、症状は改善しないのではないか」、「どこに相談すればいいのか分からないのではないか」、「介護施設が利用できないのではないか」、「不当な扱いを受けるのではないか」が多くなっています。（P.95, P.239～P.240）

■認知症の家族がいる方または家族が認知症になった際の不安感

認知症の家族がいる方または家族が認知症になった際の不安感は、「ストレスや精神的負担が大きいのではないか」（56.4%）が最も多く、次いで、「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」（46.9%）、「自分（あなた）が感情的になったり、不適切な対応をしたりしてしまうのではないか」（43.5%）、「買い物や料理、車の運転等これまでできていたことができなくなるので、周りの人の負担が大きくなるのではないか」（43.0%）と

なっています。

性別にみると、男性では「買い物や料理、車の運転等これまでできていたことができなくなるので、周りの人の負担が大きくなるのではないか」、「病院や診療所で治療しても、症状は改善しないのではないか」が女性に比べて多くなっています。一方、女性では「ストレスや精神的負担が大きいのではないか」、「自分（あなた）が感情的になったり、不適切な対応をしたりしてしまうのではないか」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「ストレスや精神的負担が大きいのではないか」、「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」、「自分（あなた）が感情的になったり、不適切な対応をしたりしてしまうのではないか」、「経済的負担が大きいのではないか」が多くなっています。また、85歳未満では「買い物や料理、車の運転等これまでできていたことができなくなるので、周りの人の負担が大きくなるのではないか」が多くなっています。

世帯状況別にみると、夫婦のみ（どちらかが65歳以上）の世帯では「買い物や料理、車の運転等これまでできていたことができなくなるので、周りの人の負担が大きくなるのではないか」、「自分（あなた）や大切な思い出を忘れてしまうのではないか」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態が悪くなるにしたがって、「外出した際に家への帰り道がわからなくなったりするのではないか」、「病院や診療所で治療しても、症状は改善しないのではないか」、「介護施設が利用できないのではないか」、「どこに相談すればいいのかわからないのではないか」、「必要な介護サービスを利用することができず、現在の住まいで生活できなくなるのではないか」が多くなっています。（P.96, P.241～P.243）

■認知症になっても安心して生活するために必要なこと

認知症になっても安心して生活するために必要なことは、「できるだけ早い段階から専門家に相談し、支援を受けられる体制があること」（39.5%）が最も多く、次いで、「認知症の人が利用できる在宅サービスや介護施設が充実していること」（36.5%）、「地域の人たちが、認知症について正しい知識を持って理解してくれること」（33.3%）となっています。

性別にみると、男性では「地域の人たちが、認知症について正しい知識を持って理解してくれること」、「認知症の人や介護している家族が、総合的に相談できる窓口があること」が女性に比べて多くなっています。一方、女性では「介護している家族が仕事と介護を両立でき、経済的負担を減らす仕組みができること」、「認知症になっても尊厳や敬意を持って接してもらえること」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「認知症の人が利用できる在宅サービスや介護施設が充実していること」、「認知症の人や介護している家族が、総合的に相談できる窓口があること」、「介護している家族が仕事と介護を両立でき、経済的負担を減らす仕組みができること」、「認知症の人に地域の人が声をかけたり、見守ってくれる体制ができること」が多くなっています。（P.97, P.244～P.245）

18 地域包括ケアシステムについて

■地域包括ケアシステムのために必要なこと

要介護状態になってもできるだけ在宅で暮らしていくことができる社会（地域包括ケアシステムの深化・推進）を目指すために必要なことは、「買い物や見守りなどの生活支援サービスの充実」（51.8%）が最も多く、次いで、「訪問介護系サービスの充実」（46.5%）、「高齢者が一人でも安心して暮らせる住居の確保」（46.4%）となっています。前回調査（平成28年度）より、「買い物や見守りなどの生活支援サービスの充実」（30.5%）は21.3ポイント高くなっています。

性別にみると、女性では「買い物や見守りなどの生活支援サービスの充実」、「ショートステイなど介護者の負担軽減のためのサービスの充実」、「かかりつけ医等による在宅医療のさらなる充実」、「簡単な機能訓練など介護予防に気軽に取り組める場の充実」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「買い物や見守りなどの生活支援サービスの充実」、「高齢者が一人でも安心して暮らせる住居の確保」、「ショートステイなど介護者の負担軽減のためのサービスの充実」が多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯、夫婦のみ（どちらかが65歳以上）の世帯では「高齢者が一人でも安心して暮らせる住居の確保」が最も多くなっています。

健康状態別にみると、健康状態がよくなるにしたがって、「地域の元気な高齢者が、ボランティアとして支える仕組みの充実」が多くなっています。（P.98, P.246～P.247）

19 健康や福祉の情報入手について

■健康や福祉に関する情報の入手先

健康や福祉に関する情報の入手先は、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、専門書など」（46.5%）が最も多く、次いで、「『市政だより』などの市の広報」（37.3%）、「病院や診療所の医師など」（33.0%）、「家族や親せき」（29.5%）、「知人や近所の人」（23.1%）となっています。

この順番は前回と同様ですが、前回調査（平成28年度）では第9位であった「インターネットなど」（8.0%）は、今回は第6位で、4.1ポイント高くなっています。

性別にみると、男性では「病院や診療所の医師など」、「インターネットなど」が女性に比べて多く、女性では「『市政だより』などの市の広報」、「知人や近所の人」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「病院や診療所の医師など」、「家族や親せき」、「地域包括支援センター」、「民生委員」が多くなっています。一方、概ね年齢が低くなるにしたがって、「インターネットなど」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、専門書など」、「『市政だより』などの市の広報」、「知人や近所の人」、「インターネットなど」が多くなっています。一方、健康状態が悪くなるにしたがって、「病院や診療所の

医師など」が多くなっています。（P.99, P.248～P.249）

20 相談相手について

■悩みごとの相談相手

悩みごとや困りごとがあったときの相談相手は、「家族や親せき」（80.5%）が最も多く、次いで、「病院や診療所の医師など」（29.3%）、「知人や近所の人」（27.9%）となっています。

性別にみると、男性では「病院や診療所の医師など」が女性に比べて多く、女性では「家族や親せき」、「知人や近所の人」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が低くなるにしたがって、「家族や親せき」、「知人や近所の人」が多くなっています。一方、年齢が高くなるにしたがって、「民生委員」が多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「知人や近所の人」、「民生委員」が多く、「家族や親せき」が他の世帯状況に比べて少なくなっています。

健康状態別にみると、健康状態が悪くなるにしたがって、「家族や親せき」、「知人や近所の人」が少なくなり、「相談相手がいない・相談しない」が多くなっています。（P.100, P.250～P.251）

21 高齢者虐待防止について

■高齢者に対する虐待の防止のために必要な取り組み

高齢者に対する虐待の防止のために必要な取り組みは、「介護者が相談できる窓口の設置」（52.6%）が最も多く、次いで、「適切な介護サービスの利用による介護者の負担軽減」（52.0%）、「地域の声かけや見守りなどの助け合い」（45.2%）となっています。

性別にみると、男性では「高齢者虐待の防止の普及啓発」が女性に比べて多く、女性では「介護者が相談できる窓口の設置」、「適切な介護サービスの利用による介護者の負担軽減」、「介護者同士の交流の機会づくり」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「地域の声かけや見守りなどの助け合い」が多くなっています。一方、概ね年齢が低くなるにしたがって、「適切な介護サービスの利用による介護者の負担軽減」が多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「地域の声かけや見守りなどの助け合い」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、「適切な介護サービスの利用による介護者の負担軽減」、「地域の声かけや見守りなどの助け合い」が多くなっています。（P.101, P.252～P.253）

22 孤立死について

■孤立死に対する考え

孤立死に対する考えは、「身近な問題だと思う」（31.7%）と「やや身近な問題だと思う」（24.7%）を合わせた56.4%が身近な問題と感じている状況です。一方、「あまり身近な問題だと思わない」（15.6%）と「身近な問題だと思わない」（9.5%）を合わせた25.1%は身近な問題だ感じていない状況です。

年齢別にみると、90歳未満では概ね年齢が高くなるにしたがって、「身近な問題だと思う」が多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「身近な問題だと思う」（50.1%）が多くなっています。

健康状態別にみると、健康状態が悪くなるにしたがって、「身近な問題だと思う」が多くなっています。（P.102, P.254～P.255）

■孤立死を防ぐために有効な手段

孤立死を防ぐために有効な手段は、「日ごろから家族や友人、知人とのつながりを作る」（63.4%）が最も多く、次いで、「近所の人と声を掛け合う」（42.1%）、「家族と同居する」（40.8%）となっています。

性別にみると、男性では「家族と同居する」が女性に比べて多く、女性では「日ごろから家族や友人、知人とのつながりを作る」、「近所の人と声を掛け合う」、「健康づくり、介護予防を心がける」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「家族と同居する」、「行政による高齢者の実態調査」、「町内会や社会福祉協議会などの行事に積極的に参加する」が多くなっています。一方、概ね年齢が低くなるにしたがって、「日ごろから家族や友人、知人とのつながりを作る」、「近所の人と声を掛け合う」が多くなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯を除いて「家族と同居する」が40%以上と多く、その他の世帯では51.3%となっています。一方、ひとり暮らしの世帯では「健康づくり、介護予防を心がける」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、「日ごろから家族や友人、知人とのつながりを作る」、「近所の人と声を掛け合う」、「健康づくり、介護予防を心がける」、「町内会や老人クラブ等、地域の見守り活動を活発にする」、「町内会や社会福祉協議会などの行事に積極的に参加する」が多くなっています。（P.103, P.256～P.257）

23 災害時の安否確認について

■災害時には誰に安否確認をしてほしいか

災害時には誰に安否確認をしてほしいかでは、「家族や親せき」（87.2%）が最も多く、次いで、「近所の人」（41.5%）、「知人や友人」（40.4%）となっています。

前回調査（平成28年度）では「近所の人」が56.1%で、今回は14.6ポイント低くなっています。

性別にみると、男性では「町内会の人」が女性に比べて多く、女性では「知人や友人」が男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがって、「かかりつけの医師や看護師」が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態が悪くなるにしたがって、「民生委員」、「かかりつけの医師や看護師」、「ケアマネジャー」、「訪問看護師」、「ホームヘルパー」が多くなり、「家族や親せき」、「知人や友人」は少なくなっています。（P.104, P.258～P.259）

24 終活について

■終活を行う予定の有無

終活を行う予定は、「予定はないが、いずれは行いたい」（43.0%）が最も多く、次いで、「すでに行っている」（16.0%）、「近いうちに始める予定である」（12.2%）となっています。

性別にみると、女性では「すでに行っている」、「近いうちに始める予定である」が男性に比べて多く、男性では「行う予定はない」、「わからない」が女性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、概ね年齢が高くなるにしたがって、「行う予定はない」が多く、「予定はないが、いずれは行いたい」が少なくなっています。

世帯状況別にみると、ひとり暮らしの世帯では「すでに行っている」（22.6%）が多くなっています。

健康状態別にみると、概ね健康状態がよくなるにしたがって、「すでに行っている」が多くなっています。（P.105, P.260～P.261）